

メディアを利用した地域づくり ―紙のまち「四国中央市」の場合―

四国中央市教育委員会
文化図書課長

篠原 知子



「書道ガールズ!! わたしたちの甲子園」
DVD 好評発売中
発売元：パップ 税込5,040円
(C) NTV

第4回書道パフォーマンス甲子園は、2011年7月31日に実施し、エントリ―21校出場校15校、来場者数3,500名を数える四国中央市を代表する大きな大会へと成長を果たしました。4年間での急激な成長の陰には、2010年5月15日に全国

公開となった、映画「書道ガールズ!!わたしたちの甲子園」の力が大きく働いていました。そして、私たちは映画制作を通して、メディアの影響力の大きさを実感しました。2008年第1回書道パフォーマンス甲子園は、川之江商店街の交差点で「四国中央

紙まつり」のイベントの一つとして3校の出場で始まりました。テレビニュースでも取り上げられ、ドキュメント番組が放映され、2009年第2回目は7校エントリ―し、決勝大会は5校の出場で第1回目と同じ川之江商店街の交差点で行ないました。そして、映画が公開された2010年の大会では、一挙に18校のエントリ―、決勝は12校と前年とは比べ物にならない反響で会場も、川之江体育館となりました。四国中央市を代表する大会の「書道パフォーマンス甲子園」は、映画とメディアを最大限に活用したイベントであり、映画とメディアによって成長したイベントだといえます。

映画制作に関わるまでは、メディアを積極的に利用する意識ではなく、イベントやニュースを提供するに留まっていた。映画制作が日本テレビであったことも影響していると思いますが、映画のPRの度に四国中央市の名前や、紙のまちであり紙の生産高は日本一という情報がテレビで頻繁



「書道ガールズ!! わたしたちの甲子園」でのワンシーン

(C) NTV

に流れるようになりまし
た。そこで、市長の指導の
下でメディア戦略を立て
て、次々と市主催のイベン
トの開催を企画していきま
した。配給会社の映画宣伝
ではなく、四国中央市は市
のPRを考えて、時には配
給会社にイベント開催を要
望しました。

映画のロケ中は、市民の
方が映画に関心をもつこと
ができる機会を増やそう
と、市民の企業や団体を中
心とした映画制作支援委員
会を結成し、エキストラの
募集を行なっていました
が、職員約30名で組織した
映画支援本部はロケの手伝
いに追われる日々が続き、
本格的にPR活動を開始し
たのは、ロケ終了後の2月
からでした。

映画ロケ終了後は、映画
制作支援委員会を引き継い
だ書道ガールズ活性化協議
会と、職員23名で組織する
書道ガールズ活性化・情報
発信本部を結成し、四国中
央市の知名度アップとイ
メージアップを目的に活動
を開始しました。

四国中央市の企画で、市

内企業の製品のパッケージに映画ロゴマー
クの使用を許可し、試写会の開催、高齢者
を中心に募集した映画観覧ツアー、ロケ地
マップや巨大ボスターの制作等、新たな企
画をメディアに紹介し、その度に新聞、雑
誌、ラジオ、テレビと様々な形で、映画と四
国中央市を取り上げてくれました。特に、
試写会の開催は、市のPRの絶好の機会と
なりました。監督や主演女優を招聘し、「紙
のまち大賞」の授与、副賞として市内製品の
プレゼントや、初代書道ガールズたちとの
記念撮影等々、出来る限りの提案をして映
画と共に四国中央市のPRをしました。そ
の模様は、日本テレビ系列で全国に放送さ
れ、四国中央市にとって愛媛県はもとより、
全国的にもPR効果は絶大なものであった
と思います。

行政はメディアの活用に関しては経験も
少なく、その知識や技術も乏しいのが現実
です。その中で、映画制作という絶好の機
会を無駄にしないため、メディアに対して
受身であった姿勢から、主体的にメディア
と関わっていくように、映画に携わる職員
の意識は変わっていききました。映画「書道
ガールズ!! わたしたちの甲子園」は、四国
中央市を有名にただけではなく、行政の
新しい可能性を引き出してくれたものではな
いかと考えます。メディアを充分に利用し
た地域づくりが出来たかと問われると、自
信はありませんが、映画制作から学んだメ
ディア対応を今後も四国中央市のPRに活
用して行きたいと考えています。